

躍動 128

ニューノーマルを
生きる成長企業群

ロザイ工業（大阪市西区、小林太郎社長）は鉄鋼・非鉄金属向けを主体とする工業炉メーカー。燃焼機器（バーナー）や工業炉内部に施工する耐火物も製造する。工業炉設計、燃焼機器、耐火物の3要素を全て自社で一貫して展開するのは世界的にも珍しい。小林社長は「問題が起きた時、どこが悪いのかを特定しやすい。よく分かっていて人間が作っている」と強みを語る。フットワークの軽さを生かし、カーボンニュートラル（温室効果ガス削減）で数社しかない。また、燃焼機器や耐火物の技術の強みも生かす

た、非鉄用工業炉としては、アルミニウム向けで国内トップシェアだ。UACJ、神戸製鋼所、日本軽金属などほとんどの主要アルミ圧延メーカーに納入する。

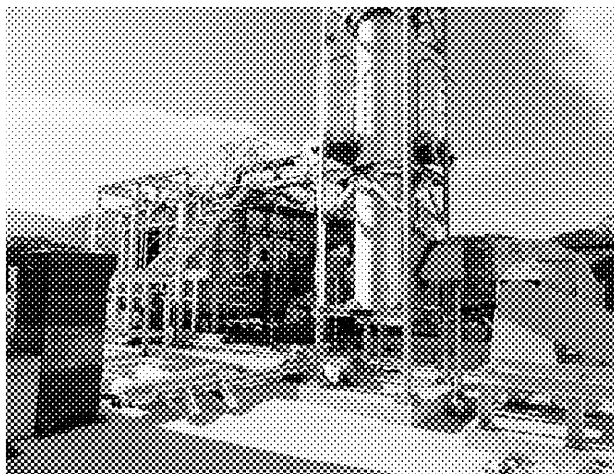
現在、中外炉工業や三建産業（広島市安佐南区）などと新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）事業に採択され、カーボンニュートラル対応工業炉の技術開発を続けている。

ロザイ工業は赤穂工場（兵庫県赤穂市）の実験炉でアンモニアや水素の混焼を実証中

ロザイ工業

工業炉設計から耐火物まで

主要アルミ圧延に納入



赤穂工場の実験炉でアンモニアや水素の混焼を実証中

ただ工業炉に投入する金属がアンモニアで窒化しないか、水素でピンホール発生が起きないかなど技術課題は多い。従来はアンモニアを燃料にするという概念すらなかったため、安全対策など制度

面も整えなければ社会実装は難しい。2009年、創業家が株式を保有していた日本鏡板工業（大阪市西淀川区）を完全子会社にした。同社は圧力容器のふたなどに使用される半球形状の鏡板を

脱炭素への燃焼技術 開発続ける

【大阪中小企業投資育成 業務第3部・浅堀裕麻係員】熱設備の3大要素である工業炉設計・燃焼機器・耐火物を自社で手がけており、設計から製作・施工・メンテナンスまで一貫して対応できる体制が強い。カーボンニュートラル対応の工業炉実現に向けた技術開発にも取り組んでおり、今後に期待したい。

投資会社の目線

製造する。双方の強みを生かし、工業炉、燃焼機器、耐火物、鏡板など言える。どの事業を一体展開する「RKシナジーグループ」としての提案を今後強化する。作るための熱設備の重要性は変わらない。小林社長は「長く顧客に貢献できるという自負がある。中小企業なら、技術者が経験を積む機会が少なくなり、若手人材の育成は容易ではない。3次元（D）設計やeラーニング（木曜日に掲載）」